

平成30年8月2日

宗教法人 阿蘇神社

重要文化財6棟 災害復旧工事の進捗について【平成30年7月】

平素より当神社の災害復旧事業にご理解ご支援を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、別添のとおり7月の経過をお知らせいたします。今後も安全性の確保に加え、文化財の価値を損なわないよう細心の注意を払いながら、慎重かつ丁寧に進めてまいります。ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1, 報告内容 重要文化財6棟、災害復旧工事の進捗
附 技術者のコラム
- 2, 報告の期間 平成30年7月1日から31日まで

以上



**一の神殿
登高欄、木階、浜縁解体前**

正面の向拝と呼ばれる箇所
解体を行いました。
この箇所は、地震によって部材
の破損、仕口の外れや緩みが
生じており、分解して補修する
必要があります。

**一の神殿
登高欄、木階、浜縁解体中**

部材を1本1本分解していきまし
た。



**一の神殿
登高欄、木階、浜縁解体完了**

解体した部材は調査を行い、ど
こを補修すべきか検討します。





**一の神殿
地長押・腰長押・壁板解体**

背面南端の柱が地震によって外に広がり、壁板がずり落ちていました。
柱を引き戻すため、部材の一部を解体しました。



写真の解体した壁板はここです

**二の神殿
耐震補強材墨付・加工**

二の神殿の床下に入れる耐震補強材です。
今月は耐震補強材用の基礎工事と、土台の墨付・加工を行いました。



**三の神殿
雨落葛石据直し**

位置、高さを調整したのち、固定しました。



写真はこの部分です



**楼門
解体部材移動**

解体後、仮置きしていた部材を、単管小屋を組み立てる敷地に移動しました。

**神幸門・還御門
金具修理**

門本体の金具も経年により表面が錆びていました。そのため、錆転換剤塗布を行いました。



**神幸門
北側親柱・唐居敷修理**

唐居敷は内部や木口を埋木したのち、もとの材を接着しました。柱の根元も腐朽が激しかったため、埋木を行いました。



この部分です

修理工事こぼれ話⑫ 二の神殿・三の神殿の大工彫刻（後編）

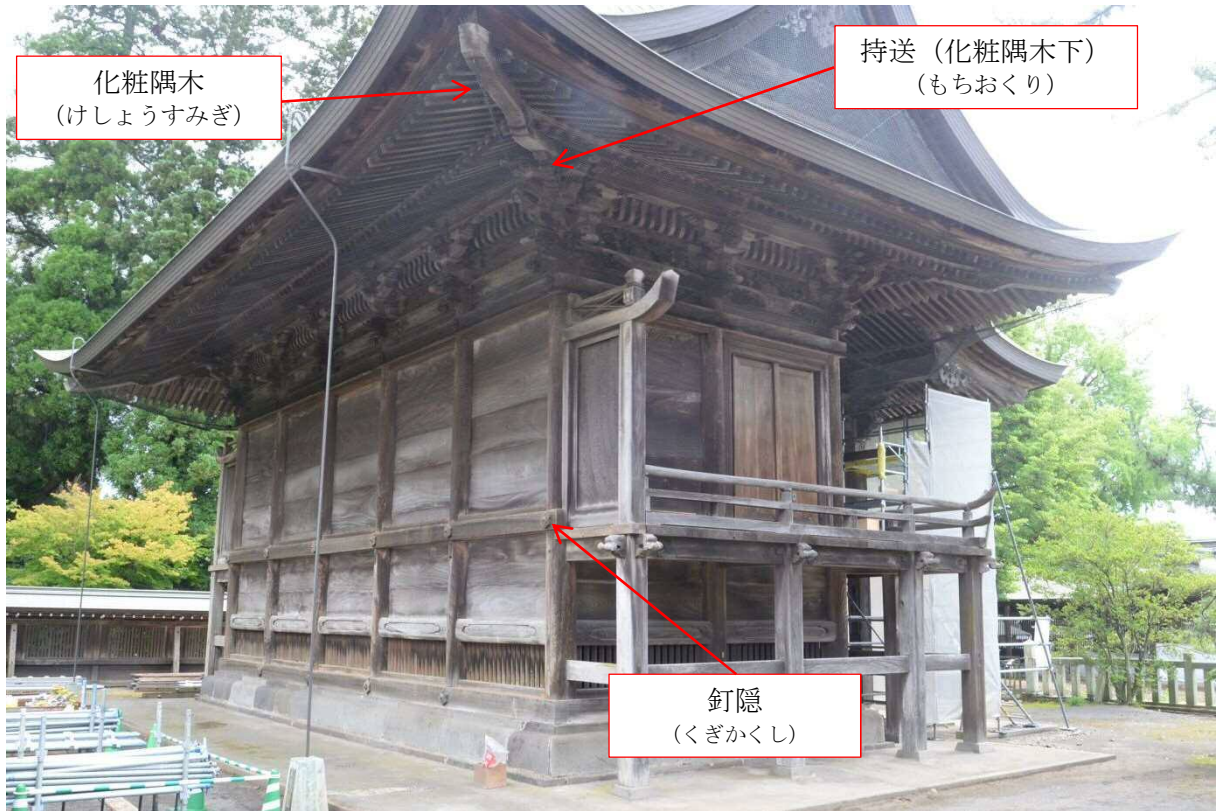
2回にわたって紹介してきた二の神殿と三の神殿の大工彫刻ですが、まだまだあります。今回はその続きとして、一方の神殿にしかない部材の彫刻・絵様を紹介します。

1. 今回紹介する部材

二の神殿と三の神殿は、建物としての形状が異なっています。二の神殿は屋根形状が入母屋造（いりもやづくり）と呼ばれるもので、さらに正面に軒唐破風（のきからはふ）が付き、軒唐破風内側には格天井（ごうてんじょう）が設けられています。三の神殿は、流造（ながれづくり）と呼ばれる建物形式で建物側面である妻面（つまめん）が大きく、にぎやかな彫刻で彩られた妻飾（つまかざり）を持っています。こういった箇所には、一方の神殿にしかない部材の彫刻・絵様があります。



二の神殿 格天井、軒唐破風廻り

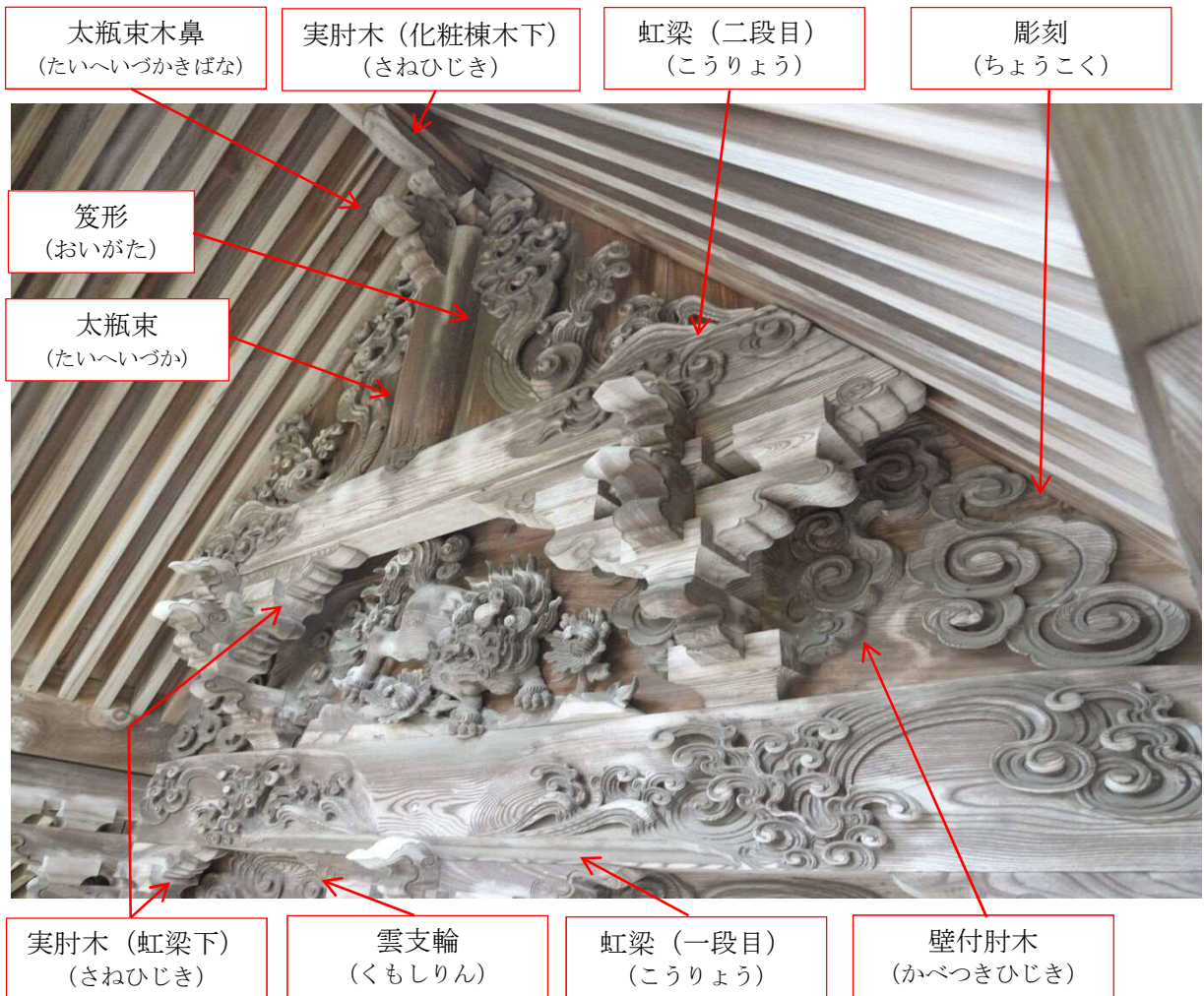


化粧隅木
(けしょうすみぎ)

持送 (化粧隅木下)
(もちおくり)

釘隠
(くぎかくし)

二の神殿 背側面



太瓶束木鼻
(たいへいづかきばな)

実肘木 (化粧棟木下)
(さねひじき)

虹梁 (二段目)
(こうりょう)

彫刻
(ちょうこく)

笈形
(おいがた)

太瓶束
(たいへいづか)

実肘木 (虹梁下)
(さねひじき)

雲支輪
(くもしりん)

虹梁 (一段目)
(こうりょう)

壁付肘木
(かべつきひじき)

三の神殿 妻飾周り

2. 二の神殿 軒廻り・唐破風

軒の四隅に斜めに出ている部材を化粧隅木といいます。見える範囲の中央付近に渦模様の絵様があります。そして、壁付近の化粧隅木の下には雲形の絵様を持つ持送が設けられています。



二の神殿 化粧隅木



二の神殿 持送（化粧隅木下）

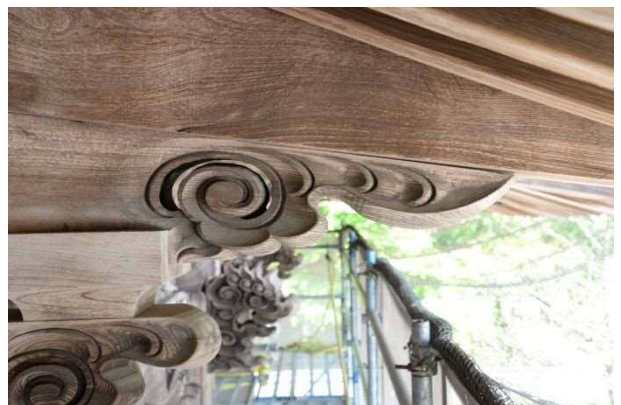
軒唐破風は3本の大きな部材で支えられており、中央のものを化粧棟木（けしょうむなぎ）、両側のものを菖蒲桁と言います。化粧棟木には絵様はなく、その下にある実肘木に絵様があります。今までにも度々登場した系統の渦模様となっています。菖蒲桁には見える範囲の中央付近に絵様があり、化粧隅木のものより若干単純な絵様になっています。菖蒲桁の下には実肘木があります。化粧棟木下の実肘木の絵様とほぼ同じ絵様ですが、渦の途中がくり抜かれており、より手の込んだものとなっています。



二の神殿 実肘木（化粧棟木下）→



二の神殿 菖蒲桁



二の神殿 実肘木（菖蒲桁下）

軒唐破風には他にも、化粧棟木の下に2つ、先端に1つ彫刻・絵様があります。虹梁の絵様は雲形です。その上の笈形も雲形をしています。化粧棟木の先端に取り付けられている部材は兎毛通（うのけどおし）と言います。下部に渦模様があったり、鰭がついていたり、前回紹介した向拝懸魚のものと同じような形の六葉が取り付けられていたり、かなり複雑なものとなっています。



二の神殿唐破風 虹梁
(格天井東面虹梁 外側)



二の神殿唐破風 笈形



二の神殿唐破風 兎毛通、鰭

3. 二の神殿 格天井周り

格天井は、四周を虹梁によって支えられています。南北面の虹梁は、外側と内側で絵様が異なります。外側は雲形であり、内側は渦と若葉となっています。東面（正面）の虹梁も絵様が外側と内側で異なっており、外側は先ほど唐破風の虹梁として紹介したもので雲形となっています。内側の絵様は、南北面内側のものと似ていますが、若干異なる絵様となっています。西面の虹梁は壁付であるため格天井側にのみ絵様があり、波形となっています。



二の神殿向拝格天井 南北面虹梁外側



二の神殿向拝格天井 南北面虹梁内側



二の神殿向拝格天井 東面虹梁内側



二の神殿向拝格天井 西面虹梁

格天井を支えている虹梁のうち、東面のものと南北面のものの下には持送・実肘木が取り付けられています。東面の虹梁の下の実肘木は前回紹介したものと同じ絵様です。南北面の虹梁の下は、西側が持送で東側が実肘木となっています。持送より実肘木のほうが複雑なものとなっています。



二の神殿向拵格天井 持送



二の神殿向拵格天井 実肘木

格天井南北面の虹梁の中央には、組物が乗せられています。この組物では手挟と木鼻に絵様が彫られています。手挟も木鼻も渦模様となっています。



二の神殿向拵格天井外側 手挟



二の神殿向拵格天井外側 木鼻

4. 二の神殿 釘隠

長押（なげし）と呼ばれる横材に、木製の釘隠が取り付けられていました。六葉に菊座（きくざ）が付き、それを樽口（たるのくち）で留めているという形状です。古写真や長押に残る痕跡から、金物の釘隠が取り付けられていた時期があることがわかっていますが、いつかのタイミングで木製に替えられたようです。



二の神殿 釘隠

5. 三の神殿 妻飾

虹梁下実肘木の絵様はシンプルな渦模様です。一段目の虹梁は波形の絵様となっています。その上の壁付肘木は渦模様、虹梁端部の上にも雲形の彫刻が取り付けられています。二段目の虹梁は雲形の絵様です。上部の中央には太瓶束があり、そこに木鼻が取り付けられています。その上には実肘木があります。木鼻・実肘木ともに、絵様は渦模様となっています。そして、太瓶束の結綿（ゆいわた）に彫刻が彫られています。太平束の両脇にある笈形は、上部は雲形で、下部が波形となっています。



三の神殿妻飾 実肘木（虹梁下）



三の神殿妻飾 虹梁（一段目）、
壁付肘木、虹梁上彫刻



三の神殿妻飾 虹梁（二段目）



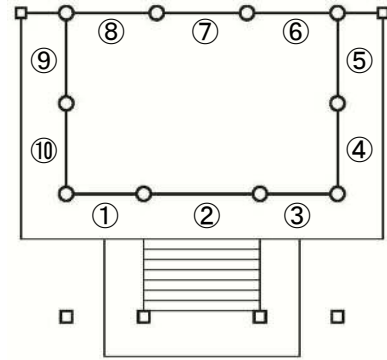
三の神殿妻飾 太瓶束木鼻、実肘木（化粧棟木下）



三の神殿妻飾 太瓶束、笈形

6. 三の神殿 雲支輪

雲支輪は、文字通り雲形が描かれた部材です。阿蘇神社の雲支輪は、雲形の彫刻が彫られています。神殿四周にわたり柱と柱の間に取り付けられています。三の神殿には10枚の雲支輪がありますが、全て絵柄が異なります。



三の神殿略平面図 雲支輪の位置



三の神殿 雲支輪①



三の神殿 雲支輪③



三の神殿 雲支輪②



三の神殿 雲支輪④



三の神殿 雲支輪⑤



三の神殿 雲支輪⑥



三の神殿 雲支輪⑧



三の神殿 雲支輪⑦



三の神殿 雲支輪⑨



三の神殿 雲支輪⑩

7. 紹介できなかった箇所

二の神殿と三の神殿は部分修理であり、近くで見ることができなかった箇所があります。そこにも様々な彫刻・絵様があります。いつかじっくり見てみたいものです。

千鳥破風（ちどりはふ）は、どちらの神殿とも懸魚（げぎょ）と鰭（はら）があり、組物や虹梁等があることはわかりますが、どのような彫刻・絵様で他にどんな部材があるかは、わかりませんでした。

二の神殿の妻飾は、懸魚・鰭については紹介しましたが、奥の部分がはっきりとはわかりませんでしたので、紹介できませんでした。千鳥破風と同じような構成になっているようです。



二の神殿 千鳥破風



三の神殿 千鳥破風



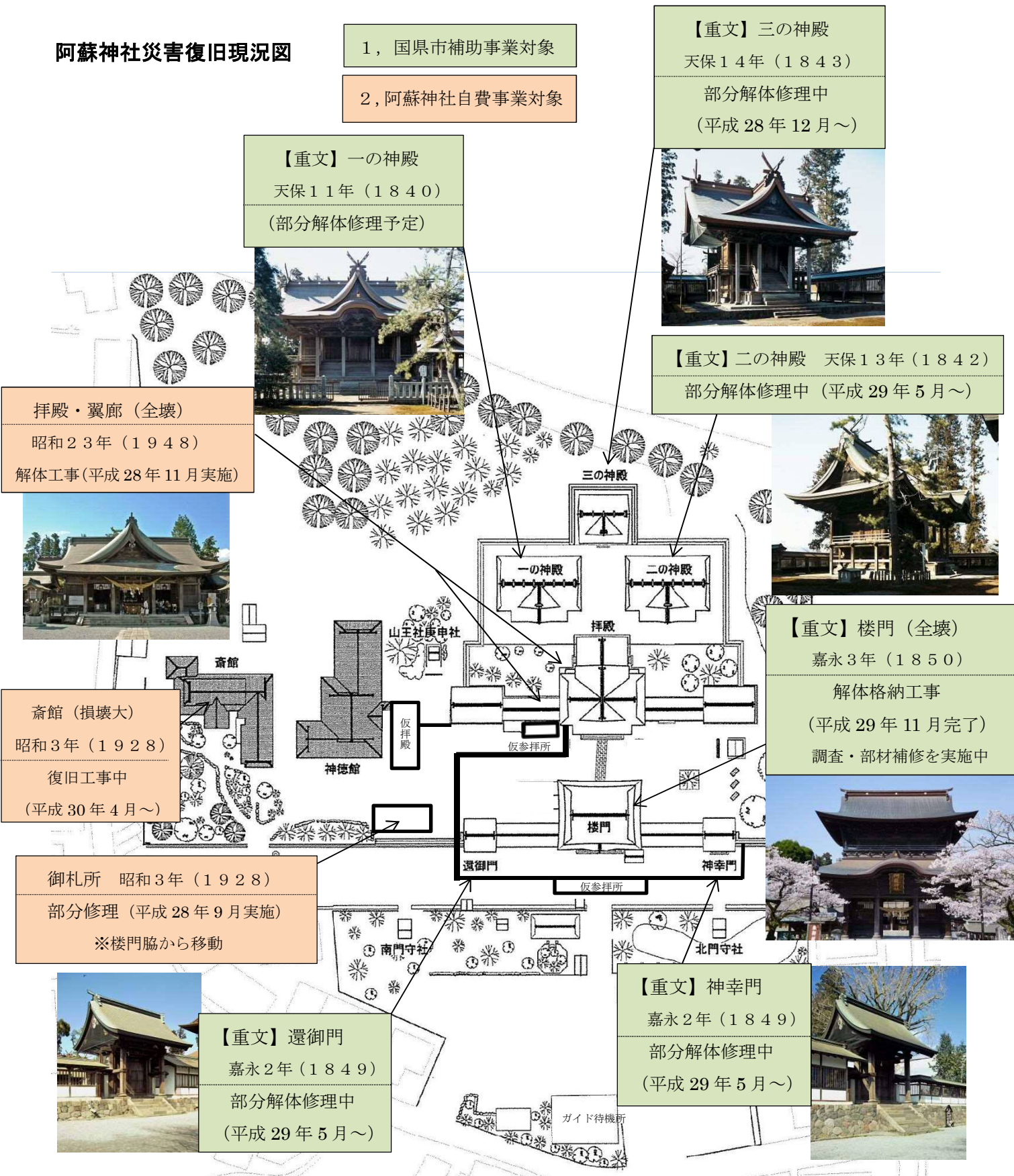
←二の神殿 妻飾

以上、3回にわたり二の神殿と三の神殿の彫刻・絵様を見てきました。阿蘇神社の神殿には膨大な数の彫刻・絵様がありますが、何より驚かされたのは、それぞれの彫刻・絵様が建物や部材の箇所によって少しずつ絵柄が変えられていることです。今回は工事中なので足場に上り間近で観察することで違いを比べることができましたが、普段は違いが分かるほど間近で見るとタイミングはありません。造営時の大工棟梁である水民元吉の、繊細なこだわりが感じられます。このように細かいところまで目を行き届かせていたからこそ、夥しい数の彫刻・絵様たちが一つの建物としてうまくまとまり、社殿群として調和することを可能にしているのかもしれない。

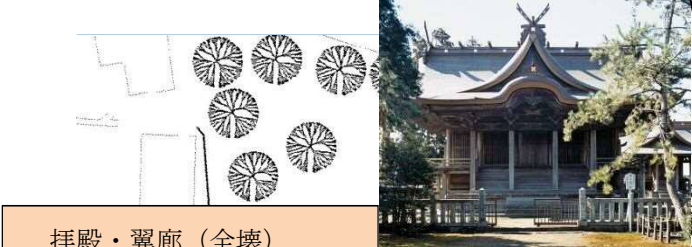
(石田 陽是)

阿蘇神社災害復旧現況図

- 1, 国県市補助事業対象
- 2, 阿蘇神社自費事業対象



【重文】一の神殿
天保11年(1840)
(部分解体修理予定)



拝殿・翼廊 (全壊)
昭和23年(1948)
解体工事(平成28年11月実施)



齋館 (損壊大)
昭和3年(1928)
復旧工事中
(平成30年4月～)

御札所 昭和3年(1928)
部分修理 (平成28年9月実施)
※楼門脇から移動

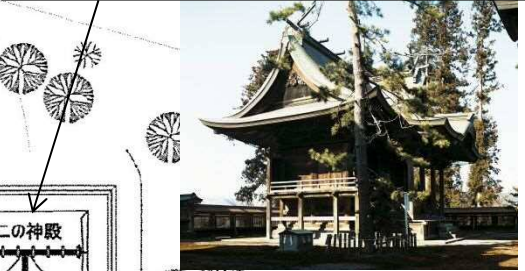


【重文】還御門
嘉永2年(1849)
部分解体修理中
(平成29年5月～)

【重文】三の神殿
天保14年(1843)
部分解体修理中
(平成28年12月～)



【重文】二の神殿 天保13年(1842)
部分解体修理中 (平成29年5月～)



【重文】楼門 (全壊)
嘉永3年(1850)
解体格納工事
(平成29年11月完了)
調査・部材補修を実施中



【重文】神幸門
嘉永2年(1849)
部分解体修理中
(平成29年5月～)



阿蘇神社災害復旧事業 進捗状況

- 重要文化財建造物6棟 (国・熊本県・阿蘇市の補助事業)
総事業費 (概算) : 9億3000万円 (平成34年度までの見込み)
うち第1期復旧工事を実施中 (事業費 : 415,370,000円)
- その他の社殿 (拝殿・翼廊・神饌所・神輿庫・齋館・御仮屋など)
総事業費 (概算) : 8億5600万円
うち齋館の復旧工事が着工 (事業費 : 118,587,240円) / 拝殿の復旧工事は着工にむけて準備中